

1 受賞団体・個人の名称

じえいえいあいちひがしわぎゅうぶかいにくぎゅうぶかいらくのうぶかい
JA愛知東 和牛部会 肉牛部会 酪農部会（愛知県新城市）

（問い合わせ先）0536-22-1251

（経歴）平成10年に設立され、鳳来牛、みかわ牛などの高品質な肉生産に取り組む。ヘルパー組合、コントラクターを設立し、作業受託による資源循環を実施。

耕種農家は積極的にエコファーマー認定。

（受賞時の経営内容）飼料作物 229ha、部会員 67戸



2 生産面の取組

- ① 平成12年に愛知東農業協同組合肉用牛ヘルパー組合を、平成15年に愛知東飼料生産コントラクターを設立し、専用機械による飼料生産や堆肥散布の作業受託を行っている。

この仕組みにより、耕種農家では収穫以降の作業と土づくりの省力化が図られ、飼料作物の作付面積拡大により自給飼料の安定供給が可能となった。



【WCSの収穫風景】

- ② 平成20年からは、稲発酵粗飼料（以下、「稲WCS」という。）の生産にも取り組み、耕種農家が栽培管理を行い、ヘルパー組合が収穫・調製・運搬作業を受託し、畜産農家へ稲WCSを供給する分業体制が確立されている。

- ③ 家畜ふんを堆肥化し、牧草地や水田へ適正施用することで、土壌中の炭素の貯留を増加させるとともに、ほ場では飼料作物が空気中の二酸化炭素を固定するなど、本耕畜連携のシステムは、二酸化炭素の排出抑制に効果を発揮している。また、堆肥利用を進めて、化学肥料の使用を減らし、メタン・亜酸化窒素の発生を抑えている。

3 経営面の取組

- ① 牛にとって栄養価・嗜好性に優れる稲WCSは、耕種農家にとって栽培しやすい上、通常の水稲栽培より有利な所得確保の手段にもなっている。

さらに、畜産農家は購入飼料より安い価格で利用できるため、年々栽培面積が拡大している。



【稲WCS開封風景】

- ② 生産された飼料は、地域の畜産農家で飼料自給率の向上とコスト低減、堆肥の適正な利用（循環型農業）を推進することを目的とし、地域内流通としている。

4 取組の成果

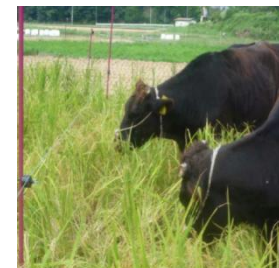
ヘルパー組合とコントラクターが自給飼料の生産に携わることで、飼料作物の作付が平成19年から平成23年の5年間で約61ha拡大された。また、地域内の遊休地が64ha解消され、地域で生産された堆肥の85%が還元されるなど資源循環型農業が実現できた。

5 地域社会への貢献

- ① 遊休農地を利用した放牧は、和牛部会を中心に平成16年から推進しており、現在までに、約5haの放牧場が造成された。

- ② 当地域は、県下でも堆肥の有効利用と自給飼料の生産が盛んな地域であり、大型作業機械の整備や作業受託のシステム化など他地域に先駆けて活動してきた。

また、隣接する地域へ自ら実践している飼料作物の栽培や収穫調製などの情報提供や助言、収穫・梱包作業の実演講習を行うことで、地域の環境保全型農業の推進に寄与している。



【放牧の様子】